教育と文化
No.115
平成29年11月1日
公益財団法人
愛知教育文化振興会
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564－51－4819

創立六十周年を迎えて
―三河の若い先生方に―

公益財団法人愛知教育文化振興会　理事長　佐々木 尚也

愛知教育文化振興会が、創立六十周年を迎えました。昭和三十二年の創立以来、本法人に関係された皆様のご尽力に、心から感謝申し上げます。

六十周年を期に、特に若い先生方に本法人について考えていただきたいと願って、この文章を書きました。未来の三河の教育を背負って立つ皆さんに、大いに期待するからです。

世の中には義務教育に関わる産業がたくさんあります。教科書や副読本・問題集を発行する、教材や教具を作る、塾や家庭教師のように教育それ自体を提供するなど、さまざまな企業などが関わって、小中学生が成長しています。

一方で、長期にわたって地域のどの学校でも良質の教育を受けられるようにするには、教師の力量向上が何よりも大切です。力量向上とは、教育に取り組む信念や姿勢をつくり、指導技術を伸ばし、地域の人・事・物についての知識を豊かにすることです。

愛知教育文化振興会は、三河という地域の教育文化の向上・発展に寄与することを願って設立されました。それはつまり、三河の先生の教師力を高める一助となることをめざすということです。そして、「学習資料の編集及び刊行並びに教育情報誌の発行」「三河地域における教育研究団体・教職員等への助成」「各種表彰及びコンクール、体験活動の実施」を主な事業として、目的の達成に努めています。

愛知教育文化振興会が発行する「教育と文化」は、先生方の教育への見識をいっそう高めてもらいたいという願いを込めています。刊行物は、毎日授業をして子どもたちの現実に向き合っている先生の手で教材やテストを作りたい、また、作成自体を研修の機会とすることで、先生方の教科の専門性を高めていただきたいという意図で作成しています。

そして、その刊行物による収益を、三河の教育を推進するために、郡市・団体・個人・学校教育ボランティアグループ等に助成しています。また、各種の表彰やコンクール等にも使われています。

刊行物編集の場や「教育と文化」は、三河の十六郡市の情報交換にも寄与しています。各郡市の気質や伝統を理解しつつ、互いに切磋琢磨する原動力になればと願っています。

三河の義務教育は、高い評価を得ています。個々の教員の教育への情熱だけでなく、教員の縦横のつながりが強く、それが円滑に進められるよう組織が整備されていることが一因として挙げられます。

こうしたことは、一朝一夕に成し遂げられるものではありません。三河の義務教育に関わったすべての先人の功績であると感謝します。この三河の教育を、若い先生方が経験を重ね、未来の若い先生方をリードする年まで向上発展させてほしいと願います。

良質の教育文化の醸成には、長い時間とたくさんの人の努力と団結が必要です。今後も、三河の教育の向上発展に貢献できる愛知教育文化振興会でありたいと、志を新たにしています。

もくじ

巻頭言
創立六十周年を迎えて　佐々木尚也
三河教育への提言
雑　感　児玉　康一
三河の文化を訪ねて
赤い鳥とともに生きた童話作家　森　三郎　浅田　敏宏
刊行物とわたし
社会の友・冬休み日誌
「竜城会館」から「三河教育会館」へ
平成三十年度版刊行物の紹介
教室の窓辺　八田　忠勝・深谷ひろみ
平成二十九年度個人研究助成
研究成果報告書提出者の紹介
平成二十九年度団体研究助成
刊行物を活用した授業
中学生の読書
学校教育ボランティアグループ活動紹介
豊根・豊根小　幸田・幸田小
特色ある教育活動　知立・八ツ田小
行事予定・編集後記

三河教育への提言

雑　感

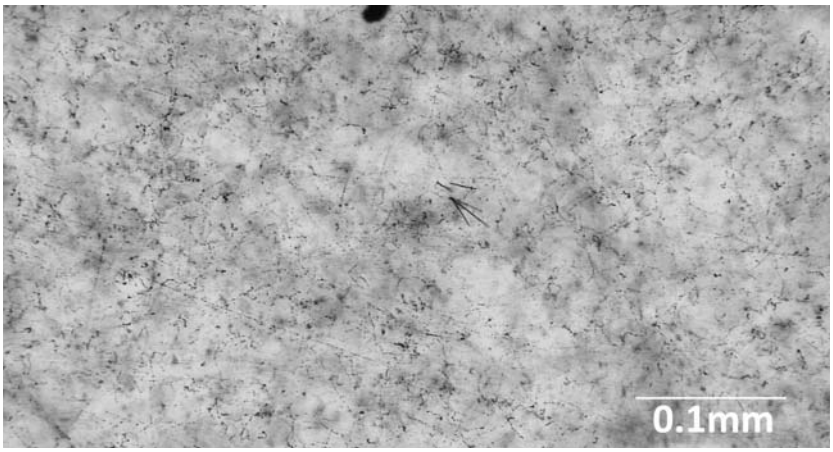
愛知教育大学附属岡崎中学校長　児　玉　康　一

はじめに

今回、「三河教育への提言」のコーナーに寄稿する機会をいただきました。理学部出身の、いわゆる教科専門の大学教員です。大学4年次からこれまで、エマルションという特殊な写真フィルムを使った素粒子物理学の実験に携わっています。その様な経歴の者が、愛知教育大学附属岡崎中学校の校長を務めることになり、不慣れな仕事にとまどうことも多いですが、附中の先生方との交流の機会を得て、その中で自分の専門的な知識が、先生方の授業研究の手助けになる経験をするなど、この立場を楽しませていただいております。本稿では、その様な経験を通して感じたことを少し紹介したいと思います。また、この機会をお借りして、これまで十年以上続けている、視覚に障害のある子どもが理科実験をする際に役立つ道具の開発を通した、盲学校の先生方との交流についても、簡単に紹介させていただきます。まずは、自身の根っ子にある研究の話にしばしお付き合いください。

自身の研究について

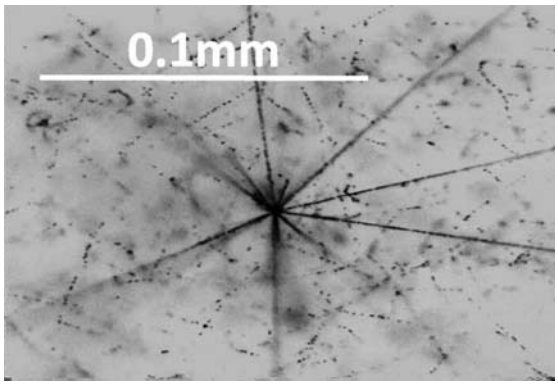
エマルションというのは、放射線に対する感度を高めた特殊な写真フィルムです。現像するまでにそこを通過した放射線の飛跡を全て記録します。このエマルションの中を顕微鏡で拡大して見ると、写真①の様な光景を見る事ができます。写真中央にカラスの足跡の様な、太くて短い線が5本見えますが、これはトリウム系列の放射性原子核一個が、アルファ崩壊を5回起こした場面です。太くて短い線は、その放射性原子核から飛び出したアルファ線（ヘリウムの原子核）の飛跡です。また、画面を斜めに走る長くて細い点線が何本か写っていますが、これらは主にミュー粒子の飛跡です。更に、画面のいたるところに曲がりくねった短い点線が写っていますが、それらはベータ線（電子）の飛跡です。



①エマルションの中

写真②も、縮尺は違いますが、顕微鏡で見たエマルションの中の様子です。画面中央から四方八方に、太い飛跡が飛び出していますが、これらは画面奥から突進してきたニュートリノが原子核に衝突し、衝突された原子核から、アルファ粒子や陽子が飛び出している場面です。研究では、例えば、この様な反応をたくさん見つけて、これらの反応の場所や、そこから飛び出している飛跡の放出角度などを計測する必要があります。

私が大学4年次から所属した研究室では、そのための道具立ては自分たちで開発するのがあたりまえでした。今でこそ3軸制御の顕微鏡ステージや、デジタル画像処理の技術は容易に利用できますが、当時は、8ビットマイコンが市販され始めたばかりで、その様な装置は自分たちで部品を集めて作るしかない状況であったためです。必要に迫られてのことではありましたが、私自身はそんな道具の開発の方により興味があったのだと思います。専らそれに関わっていた大学院時代でしたが、独自の技術を開発しながら、



②ニュートリノ反応

世界最先端の研究に挑戦している研究室で、その一端を担うことができたという自負と経験が自分の基本にあるのだと思います。

盲学校の先生方との関わり

愛知教育大学に赴任して最初の卒業研究生の一人で、その当時岡崎盲学校の教員であった方から、OB会の席で「音声で値を読み上げられる電圧計を作れないか」と持ちかけられ、4年生の卒業研究のテーマにちょうどよいかなと安請け合いをしたのが始まりです。当時、岡崎盲学校で使われていた電圧計は、一種のモールス信号の様な音で電圧値を教えてくれる二十年以上前の製品で、修理はもちろん、代替品も入手困難という状況だったと記憶しています。4年生と一緒に3年ほどかけて、使えそうなレベルのものを作ることができました。それをできるだけ多くの盲学校で使ってもらおうと、JASEB（日本視覚障害理科教育研究会）という盲学校の先生方の集まりに持ち込んだご縁で、それ以来交流を続けています。最近では「科学ヘジャンプ」という、視覚に障害のある子どもに科学にチャレンジする機会を提供する活動にも関わっています。

「感光器」というのは、光の強弱を音の強弱（高低）にして表す道具です。特定の方向からの光にだけ反応する様に指

向性を持たせてあり、水溶液の透明度や色の変化、光の反射・屈折の実験など、盲学校での理科実験の様々な場面で使われています。なくてはならない道具ですが、市販品は一台数万円します。JASEB代表をされている元筑波大学の鳥山先生を中心に、盲学校での理科実験のやり方のノウハウを、東南アジアなど発展途上国に普及させる活動をされているのですが、この価格が大きな障壁でした。そんな事もあり、「千円で感光器を作れないか」と鳥山先生から問われて作ったのが、右の写真の感光器です。実際にいろいろな所で使われています。高専や工業高校でこの感光器を組み立てて近隣の盲学校に渡すという使われ方もされています。自分の技術が、実際の役に立つという、とても楽しい経験でした。

附属岡崎中学校の先生方との関わり

ご存知の通り、附中では生活教育を理念として掲げ、問題解決的学習過程を重視した教育を追究し続けています。そのためでしょうか、理科はもちろんのこと、数学の授業でも身の回りの自然現象を素材として使う指向が強い様に思います。例えば、数学で比例を扱う際にシーソーを使った投上げを素材に使う、理科で圧力を扱う際に水鉄砲を素材に使う、などです。校長という立場で教員の皆さんと接する機会が多くなったためでしょうが、それら素材についての相談を持ちかけられるという経験を、何回かさせていただいています。

例えば、先に挙げたシーソーでは、シーソーの片方の腕におもりを落とし、その反動で反対側の腕に置いたボールを投上げる実験を通して、おもりを落とす高さと、ボールが跳び上がる高さの間の比例関係を、授業の中で発見させるのですが、この比例関係が力学的に根拠のある、原理的に正しいものなのかという事を確認しておきたいという相談でした。シーソーの板が変形しないなど、状況を簡略化して考えれば確かに正しいのですが、その先生が実際に使われた自作のシーソーでのデータを定量的に説明しようとすると、簡略化したモデルでは無理があります。せっかくなので、データをきちんと再現できるモデルを作ってみようとしています。

また、水鉄砲では、「遠くまで水を飛ばせる水鉄砲を作るにはどうすれば良いか？」という課題を通して、圧力に対する理解を深めさせるのですが、実際の水鉄砲では、水を押し出す圧力だけでなく、ノズルの形状も飛距離に影響します。ノズルの話は中学校理科で扱うレベルを超えてしまうので、水を押し出す圧力に目が向くような工夫が必要です。そのあたりの整理をするための議論（ブレーンストーミング）を楽しませてもらいました。

理科の教科書で扱う内容は、基本的な法則に焦点をあてるために、自然現象を理想化して扱う場合が多く、実験などを通して実際にそれをやろうとすると、理想化した描像が成り立つ条件を上手に設定する必要があります。授業で自然現象を素材に使う場合には、そのための工夫が必須だと思いますが、その際に自分の持つ専門的な知識や経験が役立つ事があるのは楽しみでもあります。

附中の子どもたちは、ここでの3年間を通して*Lifework*に取り組んでいます。校長一年目の文化祭での*Lifework*発表会はさながら「小さな学会」でした。先生方の授業研究は、自身の力量アップが第一でしょうが、その姿は子どもたちも見ており、彼らが*Lifework*に取り組む際のお手本にもなっているのではと思うことがあります。附中の子どもたちや先生方のこの様な姿は、実験に明け暮れていた自身の大学院時代と、少し似ている所もあり、そんな附中での生活を楽しませていただいております。

三河の文化を訪ねて　第109回

ー刈　谷ー

赤い鳥とともに生きた童話作家 森　三郎

刈谷市立富士松北小学校　浅田敏宏

森　三郎（1911～1993）

はじめに

今年七月に、『ちえの小法師』という紙芝居が勤務校に送られてきました。これは、「森三郎刈谷市民の会」が作成した森三郎童話紙芝居の第七作目の作品です。この『ちえの小法師』は、「むかし、三河に　小垣江というちいさな村が　ありました」という書き出しからもわかるように、三河、刈谷を舞台にした作品です。

原作は、雑誌『赤い鳥』の一九三二年七月号に掲載された、刈谷出身の童話作家 森三郎の童話で、彼が二十一歳の時の作品です。

『赤い鳥』での作品名は、「ちゑの小法師」。名義は、森三郎ではなく、何と、「中村吉磨」というペンネームなのです。（このことについては、後述したいと思います。）

今回は、刈谷市の誇りである童話作家の森三郎にスポットライトを当て、彼の生涯をたどりたいと思います。

▲『ちえの小法師』紙芝居表紙

赤い鳥と森三郎・銑三（せんぞう）兄弟について

森三郎は、一九一一年（明治四十四年）一月二十五日に、碧海郡刈谷町（現在の刈谷市）に、呉服商を営む森五市の三男として生まれました。四人兄弟の末っ子で、兄が二人、姉が一人がいました。長兄の森銑三（後の伝記作家）とは十六歳も歳が離れていました。一九一七年（大正六年）に亀城尋常高等小学校（現亀城小学校）に入学しました。

一九一八年（大正七年）、鈴木三重吉によって児童向け雑誌『赤い鳥』が創刊されました。尋常小学校二年生の三郎は、銑三が入手してきた創刊号に接し、夢中になったと言われています。

『赤い鳥』とは、鈴木三重吉が発刊した児童向け雑誌です。この『赤い鳥』によって、童話が文芸としての地位を築くことになりました。また、創作童謡や児童の作文、自由詩、自由画などに大きな影響を与えました。芥川龍之介や新美南吉などが、『赤い鳥』から巣立っていきました。このような児童の純性を育むための話・歌を創作し世に広める一大運動は、誌名から「赤い鳥運動」と呼ばれるようになりました。そして、その後、『金の船』（一九一九年）、『童話』（一九二〇年）といった類似の児童雑誌が創刊されることになりました。これらの雑誌は、広く子どもたちから大人までを対象に、童話や童謡を募集していました。

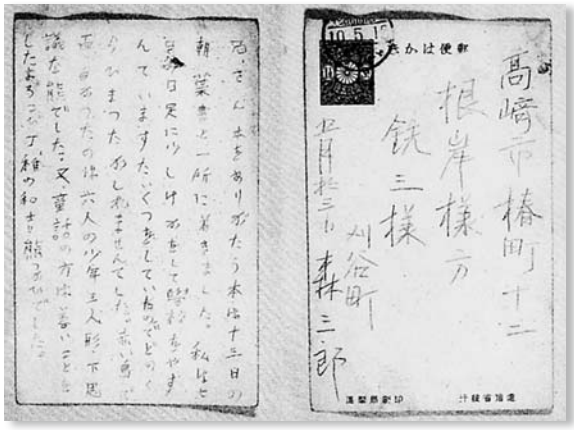
▲創刊号の表紙

一九一八年（大正七年）に、銑三が上京する際には、三郎は銑三の購入した「赤い鳥」を揃いで譲り受けています。

銑三は上京後も、三郎のために「赤い鳥」を送り続けていたと伝えられています。

一九二一年（大正十年）五月二十三日付けの三郎から、当時高崎にいた、銑三にあてた手紙には次のような記述があります。

「兄さん本をありがたう　本は十三日の朝葉書と一所に着きました。私は七日の日　足に少しけかをして學校をやすんでいます　たいくつをしていたので　どのくらひまつたかしれませんでした。赤い鳥で面白かったのは六人の少年王・人形・不思議な熊でした。又、童話の方は善いことをしたよろこび丁稚の和吉熊つかひでした。（原文のまま）」とあります。



▲三郎が銑三にあてた手紙

この手紙から三郎が本を受け取った喜びとともに、兄弟間の温かい交流を読み取ることができます。

鈴木三重吉との出会い

『赤い鳥』によって、活字の魅力に開眼した三郎は、「読む」楽しさだけでなく、「書く」おもしろさにも目覚めました。そして、三郎は自身の夢である童話作家を目指し、亀城尋常高等小学校在学当時から、数々の童話を出版社に投稿しました。特に一九二三年（大正十二年）一月号の『金の星』の少年少女の「自作童話懸賞大募集」に、童話『おぢいさんと三人の娘』を投稿して見事、佳作に選ばれました。これが自信につながり、作品の投稿を重ね、その結果、次々に入選し、誌上に作品が掲載されることとなっていきました。

一九二五年（大正十四年）に同校を卒業後、新聞で見た団員募集の広告をきっかけに、東京の川上児童楽劇団に入団しました。これは、座付作家への憧れが応募のきっかけだと言われています。この川上児童楽劇団は、御伽芝居（子どものために大人が演じるおとぎ話）の創始者である川上貞奴（かわかみ　さだやっこ）が創設した劇団です。三郎は一年ほどの養成期間を経て、童話劇や楽器演奏、舞踊などの舞台に立ちました。しかし、古めかしい芝居に限界を感じた三郎は、入団五年ほどで退団を決意します。

一九二九年（昭和四年）二月から一九三一年（昭和六年）一月までの間、『赤い鳥』は一時休刊となりますが、その後、復刊します。復刊後は、読者から読物を募集していることを知った三郎は、『赤穴宗右衛門兄弟』を「茅原順三」というペンネームで投稿し、掲載されることになりました。

▲鈴木三重吉が三郎にあてた手紙

一九三二年（昭和七年）一月には鈴木三重吉から「**一度、夕飯を共にして、童話の表現についてお話し申し上げたいと思ひます。**」という手紙をもらったことをきっかけに、童話の指導を直接受けることとなりました。

この後、三郎は毎月二作品以上『赤い鳥』に投稿するようになりました。三重吉は最も気に入った作品を森三郎の名前で、その他のものをペンネームで『赤い鳥』に掲載しました。

現在、三郎が「赤い鳥」に発表した作品は、（現在）判明しているもので一一九編、使用した名義は、本名を含めて、四十六を数えます。当時の森三郎が『赤い鳥』にいかに貢献していたか、また、三重吉がいかに、三郎を信頼していたかを伺い知ることができます。

同年六月に、三郎は編集記者として、念願の赤い鳥社に入社することになりました。

森三郎の編集記者時代

赤い鳥社に入社後も三重吉のもとで編集作業をするかたわら、童話の執筆も続けました。

復刊後の『赤い鳥』は読者から読物を募集していましたが、なかなか作品が集まらないことが続きました。また、三重吉の厳しい指導に耐えかねて赤い鳥社を辞めていく者もいました。しかし、赤い鳥との出会いをきっかけに童話作家にな

りたいという夢を抱いた三郎は、三重吉が死去する一九三六年（昭和十一年）まで三重吉と二人で編集を手がけていました。

三重吉が死去すると、三郎は、遺稿の他、写真、年譜、関係者らによる追悼文など三百六十頁におよぶ『鈴木三重吉追悼号』を単独で企画・編集し、発刊しました。これが、雑誌『赤い鳥』の最終号となりました。

赤い鳥を去った森三郎

一九四二年（昭和十七年）四月、中央公論社から、『赤い鳥』に掲載された江戸小話をまとめた『昔の笑い話』が発刊されました。同年八月には、帝国教育会出版部から『赤い鳥』で発表した作品十八編を全面的に書き改めた『かささぎ物語』を出版するなど、数多くの童話集の発刊に努めました。

一九四五年（昭和二十年）三月、東京大空襲で本郷（東京都）にある自宅を焼失しました。移り住んだ牛込の下宿も五月の空襲に見舞われ、その後、刈谷に戻り、終戦を迎えました。

戦後刊行された、森三郎の単行本は、『幼年童話集　帽子に化けたクロネコ』（東京一陽社）と『三年生の童話　お話の泉』（東京一陽社長野分室）の二冊で、前者が一九四九年（昭和二十四年）二月に、後者が三月に出版されています。

一九五一年（昭和二十六年）五月から、三郎は刈谷高校に勤務し、図書館司書などの事務に従事しましたがわずか三年ほどで退職しました。

一九五八年（昭和三十三年）、雑誌『新世界』に「鈴木三重吉研究」を寄稿してからは、三郎の著作活動は次第に、『赤い鳥』編集の思い出や証言などのノンフィクションに移行していきます。

ただ、晩年の三郎は、童謡に心をひかれた様子で、推敲を重ねたノートが残されています。その作品の一部は、一九八九年（昭和六十四年）から亡くなる直前まで、広島で発刊されている「鈴木三重吉『赤い鳥』通信」の中に発表されました。

『赤い鳥』を読み、『赤い鳥』に書き、『赤い鳥』を論じるというように、三郎の生涯に大きな影響を与えたのは、やはり『赤い鳥』でした。そして、その原点は、胸をときめかせて読んだ、小学生のときの体験だったと思われます。

三郎は生涯三百編ほどの数多くの童話を発表しています。

三郎は一九九三年（平成五年）八月二十七日に八十二歳で亡くなりました。現在は刈谷市の正覚寺に眠っています。

刈谷の子どもたちと三郎

朝の読書の時間、本校では、担任が、子どもたちに、森三郎の作品の紙芝居の読み聞かせをよく行っています。

「むかし、三河の城下町、刈谷に七右衛門というおじいさんが、おばあさんと暮らしていました。」

これは、『目ぐすり』というお話の冒頭部分です。この『目ぐすり』というお話は、目が悪くなった母親のために、目薬を買いに行く狐の子どもをおじいさんが助けるという心温まる作品です。

このように、刈谷市内の子どもたちは紙芝居や童話集を通して、森三郎のお話にとても親しんでいます。また、市が設けている森三郎童話賞に、感想文や創作作文を応募する子どもたちもたくさんいます。

参考文献

「森三郎童話選集かささぎ物語」
刈谷市教育委員会、中央図書館　編者
「夜長物語」
刈谷市教育委員会、中央図書館　編者
「森銑三と森三郎兄弟」
刈谷市中央図書館編纂
「刈谷郷土資料」
刈谷市郷土資料検討委員会

刊行物「社会の友」とわたし

―三河の児童のための社会科―

田原市立泉小学校
編集委員　河邉　英樹

平成二十九年三月、次期学習指導要領が告示されました。三年後の平成三十二年四月から小学校で施行されます。「主体的・対話的で深い学び」が、今回の改訂の目玉となっています。これを受けて、「主体的に学習できる」「活用力・応用力の向上に資する」刊行物にするという編集方針を掲げて編集を行いました。

具体的には、重要なキーワードを中心とした穴埋め問題、地図や表の色塗りといった作業的な問題が多く掲載されています。問題の内容だけでなく、絵や図、写真なども、できるだけ教科書に合わせています。そのため、教科書や地図帳を見ながらやれば、どのような子でも一人で進められるようになっています。また、「社会の学習」（振興会テスト）とタイアップして編集しているので、テスト前の復習としての活用にも適しています。

さらに、三河（愛知）の自然や歴史・文化を生かした題材を取り入れた刊行物になるような編集を行っています。五年生では、愛知県の農業や漁業のようすについて詳しく学べるような問題が多く載せてあります。農業については、愛知県の生産量が全国で上位の野菜、花き、畜産物などのランキング、漁業では、西尾（一色）のうなぎの養殖についての資料もあります。六年生では、織田信長による長篠の戦いに関する資料として、新城市にある復元された馬防柵の写真が載せてあります。これらの資料を導入として用い、愛知県についての深い学びにつなげていく使い方もできるかと思います。

統計等の資料については、毎年最新のものに差し替えています。編集委員一人ひとりが最新の資料を集めて編集していますので、教科書よりも新しい資料で学習することができるというよさもあります。

「社会の友」が、三河の児童の豊かな心、健やかな体を育む一助となる、そのような思いをもって、編集を行わせていただきました。

刊行物とわたし

刊行物「冬休み日誌」とわたし

豊橋市立幸小学校　5年　竹中　天哉（てんや）

「冬」というテーマで一番最初に思いついたのは、「お正月」でした。

カウントダウンのことや、いとこの家に行ったことなど、お正月には思い出がいろいろあります。迫力がある絵にしたいと思い、その中からもちを題材に決めました。顔を大きく描き、歯を食いしばらせました。その絵を見た友達の「何かもちと戦ってるみたい。」という言葉から題名のアイデアをもらいました。

彫刻刀で板を彫ることが一番難しく、こつをつかむまではなかなかうまくできませんでしたが、作りたいと思った作品が想像どおりにできて満足しています。

「冬といえば」という投げかけで、もちを題材に選んだ天哉さん。自分の中のイメージをもとに、迷いなく下絵を描いていきました。できあがった下絵には、もちを食いちぎろうとする天哉さんと、いつまでものびようとするもちとの戦いが表現されていました。

次の版彫りの工程では、初めての彫刻刀に苦労しつつも、しっかりとした線彫りを完成させました。

そして仕上げの版画です。一版多色刷りは、どの色にも白を混ぜ、色をはっきり出すように指導しました。時間のかかる細かい作業ですが、一色ずつ丁寧に色を重ねて作品を完成させていきました。

下絵、版彫り、色付け、この工程のうち一つも手を抜かず、迫力のある素晴らしい作品を完成させました。

（指導者　幸小　安形加奈子）

昭和32年に設立された愛知教育文化振興会は、前年に竣工した竜城会館を拠点として、三河小中学校長会、三河教育研究会と連携して学習資料の刊行、教育研究や学校教育ボランティア団体への助成など、三河の教育文化の向上発展に寄与してきました。これからも三河教育の伝統を若い世代へ伝えつつ、新たな「三河教育会館」として三河教育の文化を推進する拠点となることを切望しております。

三河教育会館（平成29年4月）

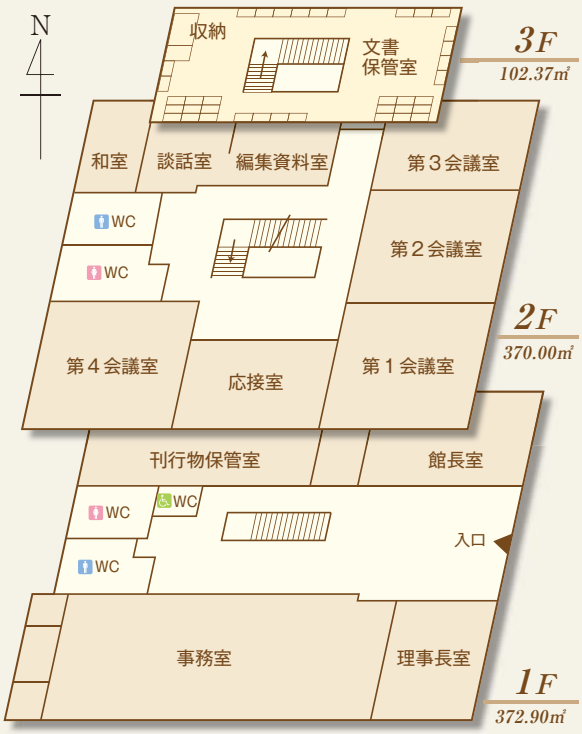
玄関・ロビー

館長室

事務室

第4会議室

会議室（第1～第3に分割もできる）



創立60周年

愛知教育文化振興会のあゆみ

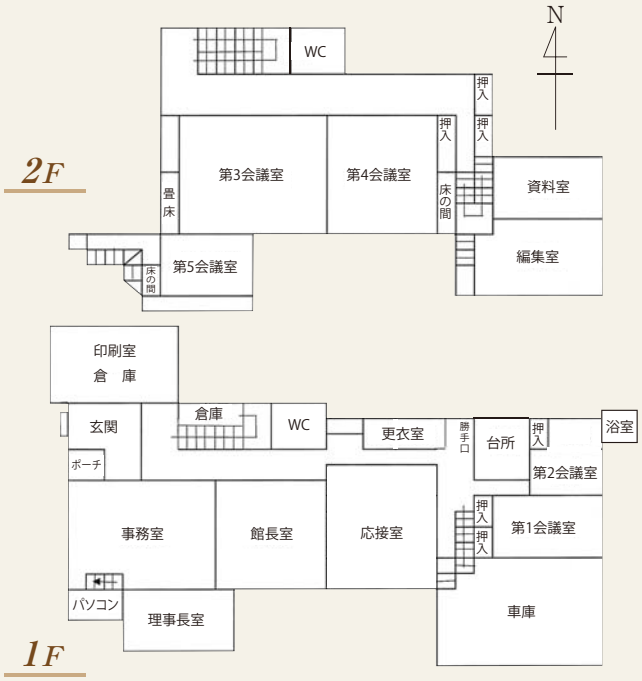
設立当時の会館（昭和31年11月）

2階　広間から次の間を望む

館長室

事務室

階　段

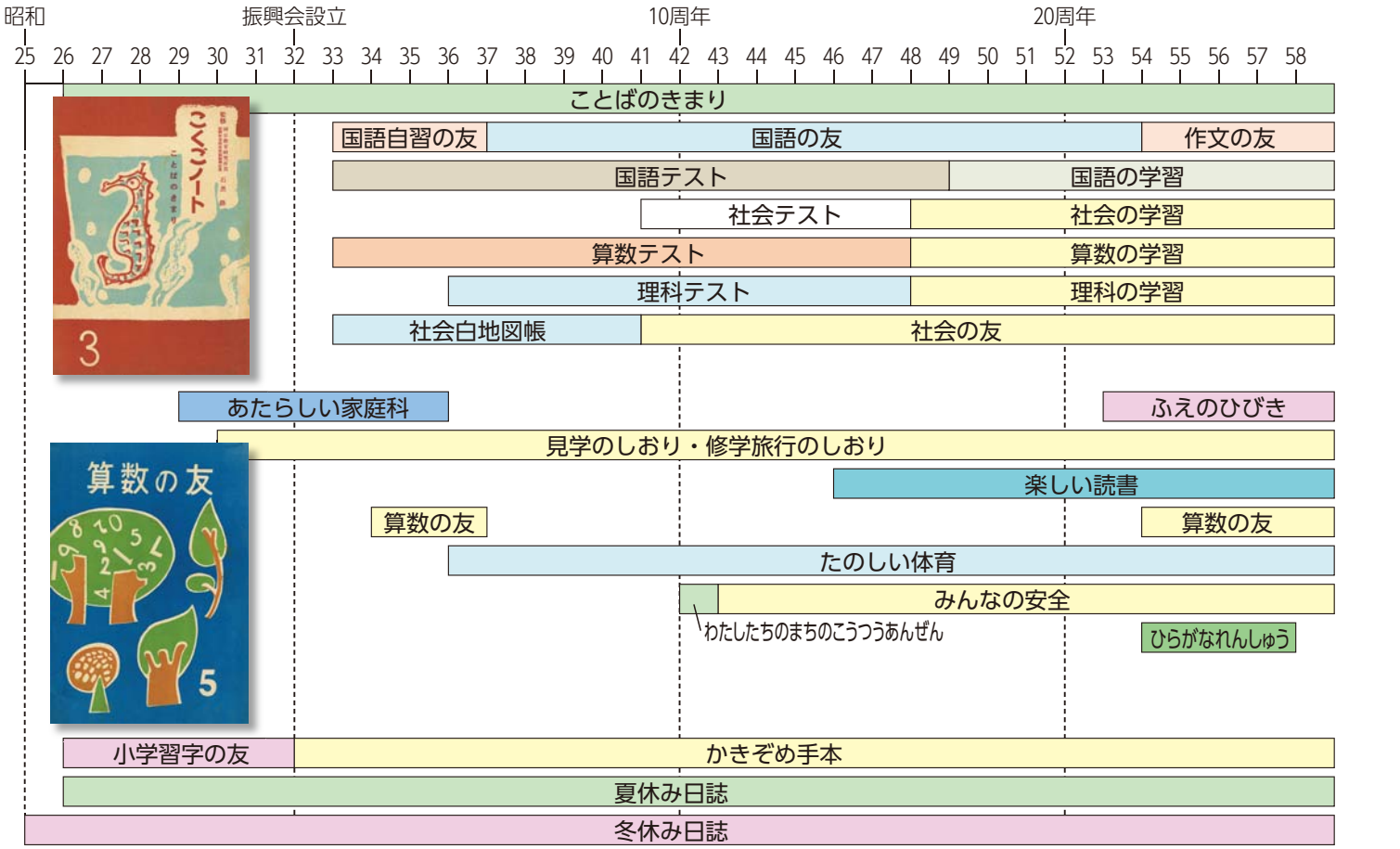


玄関（昭和62年）

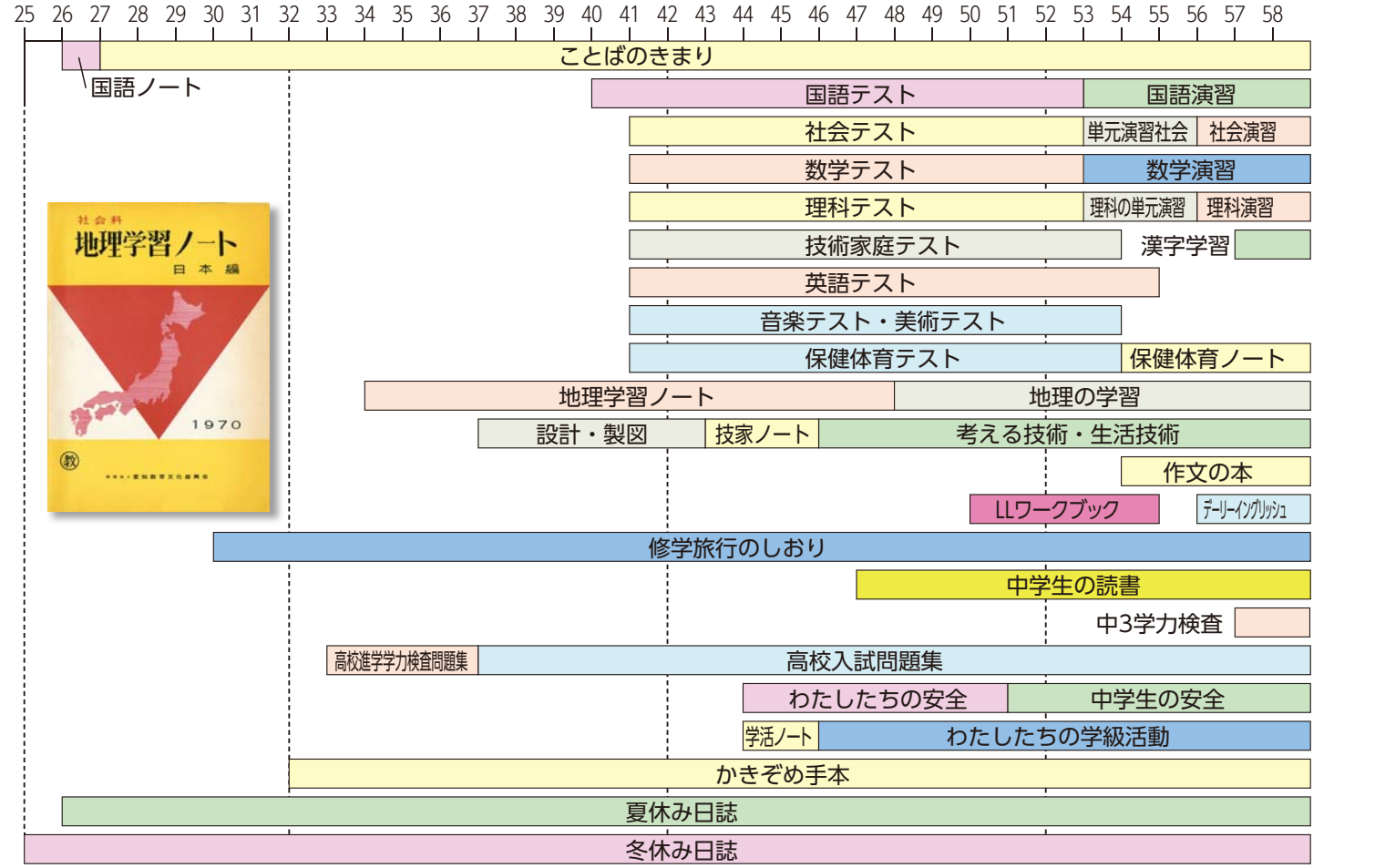
30周年
平成
40周年
50周年
60周年
59 60 61 62 63 64 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
ことばのきまり
作文の友
国語の学習
社会の学習
算数の学習
理科の学習
社会の友
せいかつかノート
ふえのひびき
修学旅行のしおり
楽しい読書
算数の友
たのしい体育
みんなの安全
ひらがな
ひらがな・かたかな
マイノート
いのち
自然発見ノート
親と子の自然観察ガイド
かきぞめ手本
夏休み日誌
冬休み日誌
せいかつかノート
2年

59 60 61 62 63 64 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
ことばのきまり
国語演習
社会演習
数学演習
理科演習
保健体育ノート
地理の学習
地理の研究ノート
チャレンジ地理
考える技術・生活技術
つくる生活技術
作文の本
国語表現の本
表現の友
デーリーイングリッシュ
修学旅行のしおり
中学生の読書
数学の友
高校入試問題集
中学生の安全
中学生の学級活動
かきぞめ手本
夏休み日誌
冬休み日誌
Daily English 1
高校入試問題集

刊行物の移り変わり《小学校版》



刊行物の移り変わり《中学校版》



平成三十年度版

小学校 刊行物の紹介

◇三河の先生方の手による、三河の児童のための安価な刊行物です。
◇教科書準拠を基本とし、基礎・基本の定着を目ざして編集しました。
※見本が必要な場合はご連絡ください。在庫に応じて、できるかぎり対応いたします。

●Ⅰ期注文●　予約注文　平成30年1月11日～18日

ことばのきまり

B5判　各学年190円
1・2年:各36P　3・4年:各34P
5・6年:各30P

◇教科書に準拠、言語事項の基礎基本の定着に役立つ内容構成
◇「まとめテスト」を教師用に掲載し、教科書対照ページを明示

作文の友

B5判　各学年215円
1～6年:34P～42P

◇教科書に準拠しており、授業や自主学習で使いやすいように工夫
◇さまざまな種類の文章の書き方が、段階を踏んで無理なく学習できる

国語の学習

B4判　各学年250円
1・3年:上7枚, 下7枚
2・4年:上6枚, 下8枚
5・6年:各14枚

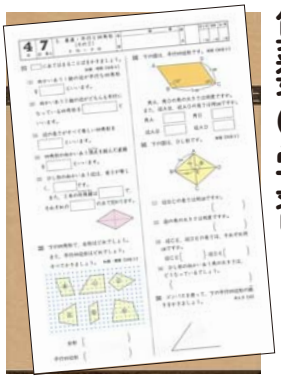
◇学習のまとめとして各単元でおさえたい内容を網羅
◇活用力・応用力の育成に配慮

社会の学習

B4判　5・6年　各270円
5年:上5枚, 下5枚
6年:上7枚, 下2枚

◇観点別に解答欄を工夫し評価しやすいよう配慮
◇教科書に準拠した問題の作成

算数の学習



B4判　各学年270円
1・5・6年:20枚
2・3年:各上10枚, 各下10枚
4年:上11枚, 下9枚

◇自己評価の参考となるように、問題ごとに評価の観点を明記(観点別点数記入欄あり)
◇児童が意欲的に取り組むためのカラー版の見直し

理科の学習

B4判　3～6年　各270円
3～6年:各12枚

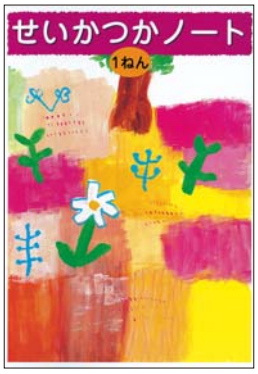
◇基礎・基本の定着と観察・実験を重視した問題、活用力・応用力の「力だめし」を掲載
◇図や絵を大きくし、解答欄を書きやすくして、取り組みやすさに配慮

社会の友

A4判　5・6年　各265円
5・6年:各28P

◇教科書にそって学習できるように配慮
◇基礎・基本が身につくように『社会の学習』とタイアップ

せいかつかノート



A4判ファイル袋とじ
1・2年　各400円
上(1年):20P, 下(2年):22P

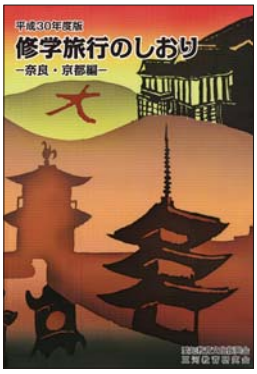
◇児童の思いや考えを、絵や文章で表現できるノート
◇教科書準拠のノートとして活用できるように改訂

ふえのひびき

B5判　230円
3～6年:36P

◇音楽専科でない先生も使いやすい工夫
◇曲を精選し、授業時間内で学習が可能

修学旅行のしおり



A5判　230円
6年:44P

◇参考となる見学地の内容や情報の掲載
◇児童の興味・関心を高める「わんぱくんと」の内容の充実

楽しい読書

◇学年に応じたさまざまなジャンルの作品を掲載
◇27年度に全作品を入れ替え

1・2年 B5判
3〜6年 A5判
各学年540円
1・2年:各80P 3〜6年:各96P

算数の友

◇つまずきの解消や自主学習に役立つ解説欄の充実
◇第一学年も上・下巻二分冊

B5判 1年 上・下とも310円
2〜6年 上・下とも345円
上:56P〜88P, 下:64P〜88P
※学年により異なります。

たのしい体育

◇児童にも、体育が専門でない先生にも授業で役立つ
◇学習の進め方をステップ1、ステップ2とし、見通しをもって学習できる

B5判 各学年340円
1・2年:各56P 3・4年:各76P
5・6年:各88P

みんなの安全

◇学校における安全・保健指導等に最適
◇発達に応じた災害への対応の紹介

B5判 各学年275円
1〜4年:各56P
5・6年:各60P

ひらがな・かたかな

◇ひらがな・かたかなの書き順の習得と文字練習
◇授業の中で使いやすくする補助線の工夫

A4判 1年 280円
1年:56P

いのち

◇いのちの大切さを、計画的・発展的に学習できる
◇「ほけん」の教科書と併用して使用できる

A4判 各290円
1・2年用:23P 3・4年用:27P
5・6年用:27P

●Ⅱ期注文●

予約注文 平成30年5月

親と子の自然観察ガイド

◇写真や資料をすべて刷新し、第3集として編集
◇三河の博物館を詳しく紹介
◇自然観察や自由研究に役立つ

A5判 500円
全学年:64P

夏休み日誌

◇基礎・基本を定着させる問題を精選
◇毎日の生活・学習習慣を支える
◇発達段階に応じた内容の精選

1〜6年 B5判, 星1 B4判, 星2・3 B5判
全学年, 各星160円
全学年:48P, 星1・2・3:40P

●Ⅲ期注文●

予約注文 平成30年9月

冬休み日誌

◇基礎・基本を定着させる問題を精選
◇毎日の生活・学習習慣を支える
◇発達段階に応じた内容の精選

1〜6年 B5判, 星1 B4判, 星2・3 B5判
各学年, 各星130円
全学年:24P, 星1・2・3:16P

かきぞめ手本

◇児童の生活に密着した言葉を題材に、一・四年生の手本を改訂
◇自己評価表を添付、文振主催かきぞめコンクール応募票を付記

1、2年 硬筆 B5判
3〜6年 毛筆 長6切判
各学年42円
〔硬筆手本1枚に練習用紙3枚付〕

平成三十年度版

中学校 刊行物の紹介

◇三河の先生方の手による、三河の児童のための安価な刊行物です。
◇教科書準拠を基本とし、基礎・基本の定着を目ざして編集しました。
※見本が必要な場合はご連絡ください。在庫に応じて、できるかぎり対応いたします。

●Ⅰ期注文●　予約注文　平成30年1月11日～18日

ことばのきまり

A4判　各学年300円
解答は別冊
各学年：44P

◇自学自習に対応できるわかりやすい解説と練習問題
◇基礎的・基本的な事項を中心とした教科書準拠の編集

表現の友

A4判　各学年255円
1・3年：38P
2年：36P

◇教科書の「書く」「話す・聞く」単元の学習にそった内容
◇生活作文・詩・読書感想文を書く学習に役立つ内容

国語演習

A4判　各学年160円
各学年：10枚

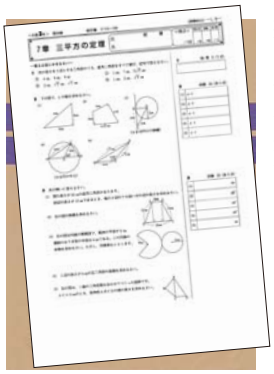
◇観点別評価にも配慮し、学習の定着度をはかることができる内容構成
◇活用力・応用力の育成に配慮し、書く力の伸長をめざす

社会演習

A4判（両面刷り）
地理 各学年185円
歴史 各学年125円　公民 185円
地理(上下)：各8枚
歴史(上)：4枚，(中)：6枚，(下)：3枚
公民：9枚

◇両面印刷とし、表は基礎・基本の定着、裏は資料活用能力や思考力・判断力を問う問題構成
◇愛知県公立高校入学検査問題の表記を基準

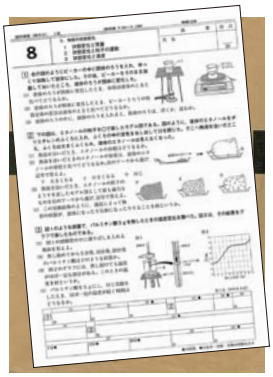
数学演習



S判 B5　L判 B4　解答A4
各学年255円
S判(片面)1年：23枚，2年：21枚，3年：24枚
L判(両面)1年：9枚，2年：8枚，3年：9枚

◇S判、L判共に三分の一程度改訂
◇知識・理解の問題の充実

理科演習



A4判　各学年285円
各学年：20枚

◇教科書に準拠、評価の観点を明示して自学自習が可能
◇基礎・基本の定着を図る問題で構成
◇活用力・応用力の「総合問題」を追加

チャレンジ地理

A4判　410円
50P

◇教科書にそって、資料を有効に活用するスキルを高める工夫
◇効果的に学習を進められるようにグラフや表のデータを最新のものとする

つくる生活技術

B5判　各分野520円
各分野：128P

◇教科書に準拠、基礎的な知識・技能の定着を重視して構成
◇技術分野・家庭分野、各一冊でノートやワークシートとしての使い方が可能

デーリーイングリッシュ

テキスト B5判　テスト A4判
各学年585円
1年：94P　2・3年：各80P

◇基礎・基本の定着に配慮
◇テストを観点別に作り直し、評価に反映
◇3学年用を増ページ

中学生の読書

四六判(ポケットサイズ)
各学年800円
各学年：190P程度

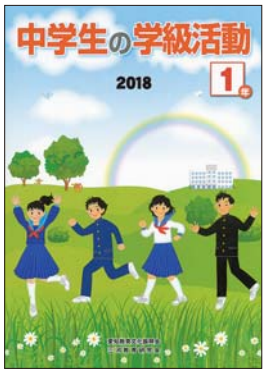
◇今、生徒に読ませたいさまざまなジャンルの作品を学年ごとに掲載
◇図書館や学級文庫の蔵書としても最適

数学の友

B5判　各学年515円
1・3年:各144P　2年:128P

◇生徒や先生の声を生かし、基礎的・基本的事項の習熟が図れるように編集
◇別冊解答編をわかりやすく構成

中学生の学級活動



B5判　各学年430円
各学年:88P

◇テーマごとに、課題一ページ、資料二ページ、ワークシート一ページの授業の流れにそった構成
◇「考えさせる」「感じさせる」ことを重視した問いかける課題に改訂
◇進路のページについては、学科や募集人員を調べ、最新の情報に変更

中学生の安全

B5判　各学年325円
1・2年:各64P　3年:60P

◇東日本大震災や熱中症、インターネットに関するトラブルなど新情報を取り入れ、その対応を掲載
◇巻末の愛知県の資料を最新のものに改訂

保健体育ノート

B5判　各学年385円
1年:84P　2年:88P　3年:92P

◇三学年とも教科書にそった内容で、授業の要点・まとめとして活用
◇図表などの資料はわかりやすいカラー刷り
◇30年度は3学年のみ改訂

●Ⅱ期注文●

予約注文　平成30年5月

高校入試問題集

B5判　1,000円
455P

◇公立高校は、平成29年と30年の学力検査問題を掲載予定
◇CDは平成29年と30年の聞き取り検査問題を収録予定

夏休み日誌（特別支援教育向け）

星1　B4判
星2・3　B5判　各160円
星1・2・3:各40P

◇長期休業中の規則正しい生活リズムを確立させる内容
◇発達段階に応じた内容
◇季節感のある体験ができる内容

●Ⅲ期注文●

予約注文　平成30年9月

冬休み日誌（特別支援教育向け）

星1　B4判
星2・3　B5判　各130円
星1・2・3:各16P

◇長期休業中の規則正しい生活リズムを確立させる内容
◇発達段階に応じた内容
◇季節感のある体験ができる内容

かきぞめ手本

長6切判　各学年42円
手本　1枚

◇生徒の心に響く言葉を題材に、一年生の手本を改訂
◇自己評価表を添付、文振主催かきぞめコンクール応募票を付記

教室の窓辺

少し離れてみると

新城市立作手小学校
八田　忠勝

「安城七夕祭りに招待されました。」

担任している五年生の子どもたちに伝えると、教室中に歓声が上がった。毎年、安城市の五年生は、新城市作手地区にある安城市の野外教育施設に来ている。そのつながりから、毎年、作手地区の五年生が安城七夕祭りに安城市から招待を受けている。今年で四十六回目の招待になる。

残念なことに、安城市のことを知っている子はほとんどいなかった。そこで、少しでも安城市のことを知ろうということになり、「安城市調べ」をすることになった。家族や六年生から聞き取りをしたり、ホームページから調べたりした。

「安城七夕祭りに来る人は百八十万人もいるよ。大きな祭りなんだね。」

「迷子にならないか？」

「『願いごと短冊』がギネス記録だって。願いごと何しようかな。」

「作手より気温が五度以上も高いよ。暑くてぼくたちは大丈夫だろうか。」

みんなで協力して調べた結果、あっという間に安城市の自然や施設などを明らかにすることができた。

そして当日。二日間にわたって、安城市教育委員会の方々に市内を案内していただいた。予想どおり到着するや否や、「暑いなあ」という声。祭り見学では、班長は気合いを入れて、

「みんな、はぐれるな。ついて来いよ。」

人口の少ない作手地区に住む子どもたちにとって、予想以上の人の多さに目を回していた。まさに、「百聞は一見に如かず」である。その中でも、きれいな七夕飾りに感動し、食べたり遊んだりとお祭りを十分に楽しむことができた。また、プラネタリウム、マーメイドパレス、デンパークなど、安城市の施設は作手地区にはないものばかりで、どれも新鮮に映った。

作手に戻ってからのこと。プラネタリウムに感動した子は、

「『安城より作手の方が星がたくさん見えるよ』と言っていたから、帰って星をながめたよ。本当に多いね。」

また、安城七夕祭りが好きになった子は、

「作手や新城の祭りももっと楽しむよ。」

他地域を訪れることで、自分の住んでいる町との違いを実感できた。ほんのちょっとではあるが、ふるさと「作手」を認識できた貴重な体験となったと思う。

野に咲く花のように

刈谷市立富士松中学校
深谷　ひろみ

私のクラスには、肢体不自由の障害があるA男がいる。A男は、体を自由に動かすことができず言葉を使って意思表示をすることはないが、好きな音楽を聴けばとびっきりの笑顔になる。

隣の特別支援学級に所属するB子は、交流のクラスになかなか入れなかった。行かなくてはいけないことは分かっているのにうまく体が動かない。集会では、A男の車椅子の陰に隠れて体育館に居られるようになり、そのうち車椅子の陰からそっと出てくるようになり、今では列の最後尾に座っている。

C子は、友達と関わることが苦手で叱られることが多い。友達には強い口調になってしまう。休み時間になると、「A〜ん」と優しく言いながら教室に入ってきて、「歩こう、歩こう。私は元気」とA男の腕を振りながらA男の好きな歌を口ずさむ。そしてA男の楽しそうな表情を見てから次の授業に向かっていく。

D子は、不登校で人前に出るのが苦手だが、A男の世話をするのは上手だ。やっとの思いで参加した発表会のステージで、A男の隣に立ち、耳元で好きな歌をずっとささやいて笑顔にしてくれていた。

私自身、無性に疲れたときには、そっとA男に打ち明ける。聞いてもらうだけで、顔を見ているだけで、心が穏やかになる。

うまくできない自分にいらいらしたり、自分の居場所が見つけられなくて不安になったりして疲れてしまった心が、A男の温かさで解きほぐされていく。自分を責めずにそこにいてくれることが心地よい。不思議な力だ。

野に咲く花のように、人を和やかにして生きているA男。そういう生き方の大切さを周りの子どもたちに知らせている。重度の肢体不自由の障害がある子が地域の通常学校で過ごす意義は、そこなのだろうと私は思っている。

昨年度、相模原市の施設で犠牲になった利用者さんの名前が、新聞紙上で伏せられた。この教室の存在が、保護者が障害のある我が子の名前を新聞に堂々と載せられる、そういう社会をつくる小さな一歩になってほしいと願っている。

平成二十九年度　個人研究助成

本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、次の先生方に助成しました。次年度も積極的な応募をお待ちしています。

一年次（二百十名）

〈国　語〉

○国語科物語教材を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成を目指して
岡崎・緑丘小・浅沼　玖美

○課題解決学習を通して、自らの書字力の向上を図る子の育成　岡崎・生平小・伊奈　良晃

○楽しく説明文を読み深める国語科の学習
岡崎・矢作北小・深谷　昌弘

○共に学び　共に伸びる子
碧南・西端小・三牧　道代

○友達とかかわり合い、互いに考えを深め、学び合う子の育成　刈谷・小垣江小・岡田　潤

○物語教材の読み取りを通して物語の面白さを伝え合い、物語を読む楽しさが分かる子の育成をめざして　豊田・挙母小・寺田　昌宏

○文章の比べ読みを通して、目的に合わせた表現の違いに気づく児童の育成
豊田・平和小・鈴木　美穂

○必要な情報を選んで活用し、自分の考えをまとめ発表することができる子の育成
豊田・市木小・松本　典子

○場面ごとの読み取りを通して、音読や動作で表現することができる子の育成
安城・桜林小・森元　創世

○叙述を基に、登場人物の心の動きを豊かに想像して読む児童の育成
西尾・中畑小・嶋﨑　春奈

○叙述をもとに、登場人物の気持ちの変化を深く読み取り、自分の考えを意欲的に伝えることができる子の育成　西尾・矢田小・平野麻里奈

○想像をふくらませて、書く楽しさを感じることができる子の育成　西尾・矢田小・杉浦香央里

○本文の叙述から登場人物の気持ちを読み取り、音読にいかすことができる子の育成
西尾・矢田小・鈴木　里奈

○必要な部分を引用したり、自分のことばでまとめたりすることのできる子をめざして
西尾・一色中部小・新家千菜津

○場面と場面のつながりを考えながら、読みを深めることができる子どもの育成
高浜・高浜小・上原　有貴

○読書に親しみ、伝える力を高め合う児童の育成
みよし・南部小・伊藤　歌那

○一人一人が自分の思いを生き生きと表現する姿をめざして　みよし・天王小・赤松　由佳

○生き生きと表現し、仲間と共に思いや考えを深める子の育成を目指して
みよし・天王小・志村　絢香

○物語の良さを味わいながら読み、物語から学んだことを書く力につなげる子を目指して
みよし・天王小・佐藤　京子

○新聞を見て読んで興味を広げる楽しさを味わう中で、自分を表現することの喜びを感じる子の育成　幸田・荻谷小・石黒　崇江

○自ら学び、考えを広げたり深めたりする子どもの育成　幸田・豊坂小・加藤　友佳

○自分の考えや思いを表現できる子の育成
豊橋・飯村小・高嶋　東

○疑問を見つけ、工夫しながら主体的・探究的に物語を読む国語科授業
豊川・八南小・今泉　佳代

○自分の考えに根拠を持ち、仲間とのつながりをもちながら、意欲的に学び合える子どもの育成
豊川・八南小・内山　佳弥

○仲間と伝え合い、自分の考えを深める指導の在り方　豊川・代田小・藤城　秀幸

○友だちとかかわりながら学ぶ子の育成
新城・千郷小・加藤　志保

○言葉に込められた思いを大切にし、心情を読み深められる子の育成
田原・六連小・伊藤　和人

○音読を通して、物語文を進んで読み味わう子どもの育成
北設・田口小・金田千賀子

○自己評価、相互評価を通して、正しく美しく書く力を身に付ける書写の授業
岡崎・美川中・寄田　彩日

○言葉にこだわり、仲間と関わり合い、読みを深める生徒の育成
刈谷・依佐美中・五十嵐千愛美

○生徒の論理的思考力を高めるための、書くことや話すことを意識した授業づくり
豊田・崇化館中・田中　祥貴

○書き方がわかり、書くことの楽しさを実感しながら、主体的に「書く」活動に取り組む生徒の育成を目指して　豊田・逢妻中・石川　瞳

○自ら求めて書き方を学び、仲間とともに高め合い楽しみながら「書く」活動に取り組む生徒の育成　豊田・前林中・近藤　建

○話し合うことの良さを実感し、自分の考えを広げ、深めることができる生徒の育成
豊田・小原中・三宅　由莉

○社会人の働き方と新大学入試に対応した、学校教育のテスト改革　安城・東山中・朝岡　郁晶

○キーワードを見つけながら読み、要約できる子をめざして　西尾・一色中部小・牛田ひとみ

○古典に親しみ、古人の生き方について関わり合いを通して考えを深めていくことのできる生徒の育成　西尾・吉良中・石川　幸世

○言葉を根拠にして自分の考えを形成し、伝え合い、学びを深める生徒をめざして
みよし・北中・片山　亮

○古人のものの見方、考え方を読み取り、古典を身近に感じることのできる生徒の育成
幸田・幸田中・山本　啄巳

○関わり合いを通して自分の考え方を大切にし、表現できる生徒の育成
豊川・東部中・朽名　紘介

○かかわり合いながら、考えを深める子の育成
蒲郡・塩津中・牧原　玲名

〈社　会〉

○資料を活用し、自分の考えをもち伝えることのできる子供の育成
岡崎・矢作北小・中本　智裕

○課題に対して意欲的に追究し、学びを伝え合い深めることができる子供の育成
岡崎・矢作北小・鷹巣　哲司

○地域に目を向け、社会認識を深め、郷土への思いや愛着をもつ児童の育成
岡崎・六ツ美北部小・畔柳　圭祐

○仲間との関わり合いを通して、深い学びへ向かう子供の育成
岡崎・六ツ美南部小・加藤　玲奈

○身近な生活や社会的事象に目を向け、主体的に学び、「自分たちにできること」を考えられる子の育成　豊田・前山小・吉兼悠里子

○自ら調べ、問題を解決し、他者の意見と交わる話し合いができる子どもの育成
豊田・青木小・櫻井　亮輔

○資料から歴史的事象を読み取り、自分なりの歴史観をもつことができる子の育成
豊田・朝日小・浮穴　瑞木

○社会的な見方や考え方を養う社会科学習
みよし・中部小・尾藤　祐基

○身近な事象から課題を見つけ、解決のために追究する児童の育成
みよし・北部小・田畑　育海

○自ら追究し、学びを広げる蒲南っ子
蒲郡・蒲郡南部小・石川　昂季

○自分と仲間の見方や考え方を比較したり、関連付けたりする中で、自分の見方や考えを再構築しようとする生徒の育成
岡崎・矢作中・小林　広奈

○社会科の学習を身近に感じ、積極的に社会参画しようとする生徒の育成
刈谷・依佐美中・樫尾　葉月

○グループ学習やグループ・個人での作業学習を通して、自分の考えや思いを深め、表現できる生徒の育成　安城・安祥中・小澤　由惟

○自分の考えを伝え合える社会科の授業
西尾・寺津中・尾崎　拓也

○国産と外国産の食糧比較を通し、今後の日本の食料事情や海外との共生に目を向けることができる生徒の育成　豊橋・南稜中・太田　篤行

○関わり伝え合い、考えを広げる子どもの育成
北設・設楽中・村松　健太

〈算数・数学〉

○算数的活動を通して、主体的に学び、筋道を立てて考える授業　岡崎・梅園小・井畑絵美梨

○算数的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成を目指して
岡崎・井田小・岩野　慎也

○学び合いを通して、思考力・実践力を育む算数科学習　岡崎・矢作南小・佐宗　梨紗

○具体物を使って、主体的に学ぶことができる子供の育成　岡崎・六ツ美南部小・岩月　聖将

○友達とかかわり合いながら、新たな見方に気づき、考えを深めようとする子の育成
豊田・前山小・寺澤ちひろ
○友達とかかわり合いながら自分の考えを伝え、深めることのできる子の育成
豊田・高嶺小・中野　紗季
○力を合わせ、練り合い、鍛え合う子の育成
豊田・上鷹見小・三浦　奈々
○自ら考え、できる喜びを味わう子の育成
豊田・道慈小・福岡功二郎
○学びを生かし、自分で考え、説明できる子の育成
豊田・小渡小・高須　裕大
○気づきを自分の言葉で表現し、話し合い活動から考えを深めることができる児童の育成
安城・桜井小・佐藤　将義
○概念を理解し、自分の考えに根拠を示して説明できる児童の育成　安城・桜町小・稲垣　翔大
○計算のしかたを理解し、算数的な表現力を身に付ける児童の育成　安城・桜町小・大橋　鮎美
○自分の考えをもち、深めることができる子を目指して　安城・三河安城小・浅田　梨花
○とことん追究し、自分の考えを素直に表現できる子の育成　高浜・高取小・鏡味　英修
○仲間との協働的な活動を通して問題を解決し、根拠を明らかにしながら論理的に説明できる子どもの育成　幸田・深溝小・関　大介
○友達と考えを深める子の育成を目指して
豊川・代田小・母倉　幸歩
○自ら考え、共に学び合う中で、「学ぶって楽しい」と思える子の育成
新城・舟着小・新川　裕人
○自分の考えを順序立てて説明できる子どもの育成　北設・名倉小・原田　優佑
○ペア学習をいかし、自分の考えを伝え合う子の育成　北設・豊根小・安藤　誌洋
○分かったことやできたことに喜びを感じられる生徒の育成　刈谷・雁が音中・平澤　純
○学び合いを通して自らの考えを深め、相手に分かりやすく伝えられる生徒
豊田・竜神中・田代　晋
○既習事項をもとに、新しい問題に意欲的に取り組むことのできる生徒の育成
安城・安城西中・武田実由貴
○主体的に学びを楽しむ生徒の育成
安城・桜井中・杉浦　力
○主体的に問題を追及し、数学的な考え方を生活に生かすことのできる生徒の育成
知立・竜北中・金原　正季
○主体的に数学的活動に取り組むことができる生徒の育成　高浜・高浜中・西尾　優貴
○数学的活動を通して、学ぶ意欲を高める授業づくり　みよし・南中・有井　達哉
○関わり合いを通して数学的な表現力を磨き、意欲的に学ぶことができる生徒の育成
幸田・幸田中・牧野　築
○仲間とのかかわり合いを通して、自ら課題を発見し主体的に学び続ける生徒の育成
幸田・北部中・市川　和也
○自ら学ぶ生徒を育成する数学授業
蒲郡・蒲郡中・岩本隆之介

〈理　科〉

○化学的な見方や考え方を身につけ、主体的に学びを深める子の育成　岡崎・細川小・日下部教子
○主体的に考え、気付きを深められる子の育成
安城・安城東部小・杉谷　葉
○主体的に関わり合い、学び続ける子の育成
安城・錦町小・小橋　美咲
○主体的に考え、学び合う子をめざして
知立・知立小・久野　智代
○生き物に愛着を持って学習に取り組み、実体験をもとにした自分の考えをわかりやすく表現する子の育成　知立・猿渡小・成瀬　雄志
○実感を伴った理解を図り、子どもたちの学習意欲を高められる学習
蒲郡・西浦小・原田　果奈
○自然事象に興味をもって追究し、考えを深める子の育成　北設・東栄小・原田　慶佑
○目的意識をもって観察・実験を行い、実感を伴った理解を表現できる生徒の育成
岡崎・新香山中・岩井　恵
○自然の事象について実感を伴った理解を深め、主体的に探求することのできる生徒の育成
岡崎・新香山中・中野　仁恵
○既習の知識を活用して課題解決できる生徒の育成　豊田・高岡中・石川　和貴
○実験結果をもとに科学的に考え、まとめることができる生徒の育成
豊田・藤岡中・横見　智之
○ＩＣＴ機器を活用し、仲間と関わり合いながら問題解決できる生徒の育成
豊田・稲武中・湯澤　貴司
○実験の技能を身につけ、見通しをもって実験を行うことで、考察することができる生徒の育成
安城・安城西中・丸山　星哉
○事象に対して主体的に関わり、既習内容を使って実験の計画や分析の方法を自ら考え、追究しようとする生徒の育成
田原・東部中・鈴木　匠也
○化学的事象をねばり強く追究する生徒の育成
田原・福江中・箕輪　雄介

〈音　楽〉

○楽器の演奏を通して、自分の思いを楽しんで表現することができる子どもの育成
豊田・高嶺小・淵上　彩佳
○思いや意図をもって演奏し、音楽表現の喜びを感じられる子どもの育成
豊田・平和小・斎藤　彩日
○楽しみながら中間とともに主体的に活動できる子をめざして　知立・知立小・河邉　奈世
○仲間と高めあいながら、より豊かな音楽表現を目指す生徒の育成　豊田・松平中・山脇美菜子

〈図画工作・美術〉

○自信をもって、自分の思いを豊かに表現する子の育成　豊田・足助小・安藤千佳子
○自他の思いや願いを大切にしながら、仲間とともに探究し、自ら解決していく喜びを味わう子どもの育成　西尾・一色西部小・下出　竜大
○他者とかかわり合い、主体的に活動に取り組み、表現方法を創意工夫する生徒の育成
刈谷・雁が音中・神谷明香理
○仲間とかかわり、地域への思いを高める中で、美術への関心の高まりを実感できる生徒の育成
豊田・井郷中・柴田　悠幾
○作品づくりを通して豊かな発想・構想を引き出す授業の工夫　安城・明祥中・加納菜々子
○仲間と関わりながら発想を広げ、自己表現に自信をもつことができる生徒の育成
西尾・吉良中・有上　枝歩
○身近なものに関心をもち、写実的な表現を工夫しようとする生徒の育成
幸田・幸田中・渡邉　悠華
○日本の美しさを世界へ!!思いを届ける私たちの浮世絵
豊橋・南稜中・川口小夜子

〈家　庭〉

○地域の文化を知り、他者との関わり合いを通して、自らの生活を主体的に改善しようとする子供の育成　岡崎・矢作東小・藤本多真季

〈体育・保健体育〉

○友達との関わり合いを楽しみながら運動する子どもの育成　刈谷・朝日小・鈴木　匠也
○運動の楽しさを味わい、自ら進んで運動に取り組む子の育成　豊田・市木小・大須賀郭敏
○仲間とともに技を磨き合う中で、技への自信を高め、その技を生かした表現を楽しむ子の育成
豊田・浄水北小・水谷　清二
○学習の楽しさを実感し、主体的に学ぶことができる児童の育成
安城・安城東部小・神谷　貴俊
○仲間とかかわり合いながら、運動能力を高める児童の育成　安城・安城北部小・松本　京子
○仲間とかかわり合い、生き生きと表現する子どもの育成　みよし・北部小・廣森　加与
○何事も最初からあきらめずに取り組み、かかわり合いながら、乗りこえていける子の育成
幸田・坂崎小・高須　優典
○豊かなかかわりを通して、「わかる」「できる」喜びを味わう体育学習
蒲郡・蒲郡南部小・吉浜絵里子
○考えを広げ、深める授業づくり
蒲郡・塩津小・壁谷　佳世
○仲間と関わり合いながら課題解決に取り組み、できる喜びを実感できる生徒の育成
刈谷・依佐美中・大石　兼司
○得点できる楽しさを味わい、すすんでボールゲームに取り組む生徒の育成
豊田・崇化館中・本多亜也子
○生徒同士の学び合いを通して、論理的思考力を高める指導法の研究
安城・東山中・齋竹　優貴
○仲間と共に運動に親しみ、運動の楽しさを感じる授業を目ざして　西尾・寺津中・岩貝　幸亮
○運動のコツをつかみ、主体的に技能を向上させる生徒の育成　みよし・南中・藤井　孝昌
○仲間とともに学び合い、高め合う生徒の育成
みよし・三好丘中・隠岐　卓也
○仲間を思いやり、共に学び、共に成長する生徒の育成　幸田・幸田中・池野恵理子

〈外国語活動・外国語〉

○英語に慣れ親しみ、英語を使う楽しさを実感できる児童の育成　岡崎・三島小・加藤亜有未
○体験的な学習の中で、自ら外国語を活用しようとする子どもの育成
豊田・市木小・桑原　佳佑

○楽しく文字に慣れ親しみ、主体的に英語表現しようとする子の育成
豊田・中山小・後藤　千佳
○自分の言葉で語ることのできる子の育成
高浜・吉浜小・木股　雅斗
○英語を使って相手と関わりあいながら楽しくコミュニケーションができる生徒の育成
岡崎・美川中・鈴木　理沙
○学んだ表現を活用し、英語で伝え合うことに喜びを感じる生徒の育成
岡崎・矢作中・和泉　亮哉
○英語を使って生き生きと自分の思いを伝えられる生徒の育成　岡崎・新香山中・山田　恵美
○仲間とかかわりながらコミュニケーション能力を身につける生徒の育成
安城・安城北中・清水久美子
○自分の思いや考えをもち、英語で生き生きと表現できる生徒の育成
安城・明祥中・五井　美樹
○4技能を活用した、実践的コミュニケーション能力を育成する指導法の研究
安城・東山中・佐々木　歩
○協同的グループワークを通して、自ら課題を発見し主体的に学び続ける生徒の育成
幸田・北部中・長岡　翔紀

〈生　活〉

○6年生とのペア交流を通して、気付きの質を高める生活科の授業
岡崎・梅園小・矢田　真衣
○野菜に愛着をもち、野菜のおいしさを味わう子供の育成　岡崎・矢作北小・長友　一起
○自分のよさに気付き、これからの成長の願いをもつことのできる子の育成
豊田・上鷹見小・宇野　理恵
○身近な自然物や友達と関わり、思考を深める子の育成　西尾・中畑小・高須　亜希
○身近な「人・もの・こと」とかかわりながら防災について追究し、知識を学び、通学団の安全のために動きだす子どもたち
西尾・一色中部小・颯田　知央
○諸感覚を使って野菜と関わり、気付きの質を高める子の育成　西尾・一色東部小・坪内　優子
○一人一人が楽しく意欲的に関わり合い、活動できるようにするための支援
みよし・北部小・岩本　恵
○地域の人に積極的にかかわり、自他のよさを感じられる子どもの育成
幸田・中央小・大須賀　学
○自ら追究し、仲間とともに学びを広げる生活科学習　蒲郡・蒲郡南部小・小林　奈央
○自ら追究し、学びを広げる子の育成
蒲郡・蒲郡南部小・杉本　芳依

〈道　徳〉

○他との関わり合いの中で、よりよい生き方を求める子の育成　豊田・前山小・大寺　佳祐
○みんなのためにできることを実行し、自己有用感を高められる児童の育成
安城・桜町小・伊藤　紀衣
○よりよい生活について考える子の育成
安城・今池小・神谷　茉里
○多面的・多角的に自己の生き方への考えを深める児童を育てる道徳の授業
安城・三河安城小・佐藤　栞
○自己の生き方を見つめ、多面的・多角的に考えを深める子を目指して
西尾・室場小・壁谷　絵美
○人の意見に耳を傾け、柔軟に考えることのできる児童の育成　西尾・横須賀小・伊藤裕理奈
○多面的・多角的に考え、自らの考えを深める子どもの育成　西尾・横須賀小・椎野　十夢
○すべての子どもが真剣に考え、楽しく学ぶ道徳の授業
知立・知立東小・二宮　敬之
○授業において自己を見つめ直し、自分の生き方に生かそうとする子の育成
高浜・高取小・竹市　健二
○互いに思いやり、温かい人間関係を築く子どもをめざして　みよし・北部小・石川すま子
○道徳的価値を理解し、よりよく生きる子の育成
みよし・三吉小・中園　隼人

〈学校保健〉

○自分の「いのち」を大切にし、健康に気をつけた行動ができる子の育成
岡崎・矢作東小・鈴木　滋子
○強くしなやかな心をもつ児童の育成
安城・作野小・水越　雅大
○生活リズムを見直し、自分に合った「早寝・早起き」ができる子を目指して
みよし・中部小・各務　有華
○健康について学ぶ楽しさをもち、得た知識を自分の生活に生かすことのできる児童の育成
豊橋・牟呂小・城所　美和
○自分を大切に思い、友だちも大切にできる児童の育成　新城・鳳来寺小・松本　佳奈
○自分の生活を振り返り、生活リズムの改善に取り組める子の育成
新城・黄柳川小・伊藤　加依
○自分をみつめ、よりよい生活をしようと努力する子どもの育成をめざして
北設・豊根小・村松　典子
○自分の生活リズムを振り返り、改善できる生徒の育成　豊田・小原中・片岡　悠里
○生涯を通じて健康的な生活を送ることができる生徒の育成　安城・安城西中・玉野井　悠
○自他のいのちを大切にできる生徒の育成
西尾・寺津中・山崎　彩乃

〈特別支援教育〉

○自分の思いを伝え合う力の育成
碧南・西端小・石川恵津子
○心を開放し、のびのびと楽しみながら、ライフスキルを獲得する児童の育成
豊田・前山小・八木　淳子
○自閉症の外国籍の児童が自分の思いを相手に伝えることができる指導の工夫
豊田・野見小・滝澤　心也
○相手の気持ちを考え、仲間とかかわろうとする子どもの育成　豊田・広川台小・島田　精子
○人との関わりを楽しみながら、主体的に活動する児童の育成　安城・安城東部小・熊倉　三恵
○笑顔と輝くひとみあふれる子どもの育成
西尾・一色東部小・林　奈歩
○全身を使って作品作りに取り組み、自分の思いを表現できる子をめざして
西尾・一色東部小・稲垣　千秋
○自ら学び、できる喜びを感じる学習指導
蒲郡・西浦小・渡邊　柚季
○言葉のリズムで語彙力アップ　伝えようぼくの気持ち　考えよう友達の気持ち
新城・千郷小・安形　美樹
○ことばの豊かさやおもしろさを味わい、意欲的に学ぶ生徒の育成　高浜・南中・榎本　伸
○特別な配慮が必要な生徒の英語学習
幸田・南部中・宮地　里紗

〈総合的な学習〉

○ふるさとの自然を自分事として捉え、未来をみつめ創造する子供の育成
岡崎・生平小・中島　翼
○友達と力を合わせて、主体的に活動できる子どもの育成　豊田・畝部小・伊藤　美幸
○体験・交流を柱として、自分の考えを深め、思いを実現しようとする子の育成
豊田・御作小・税所　俊企
○思いやる心を育み、思いを伝え合う子をめざして　安城・安城東部小・太田　智子
○他者とかかわり合い、自分の考えを深める子どもの育成　安城・志貴小・田代　寿夫
○情報・メディアを活用し、問題解決に向けて主体的に活動することができる子の育成
安城・桜林小・神谷　佳孝
○地域の社会事象を追究し、自ら学び自ら考える力を育む　安城・今池小・岸　真美
○防災学習に真剣に取り組む意欲を基に、地震による自分の家の中の危険に気づき、対策を考えることのできる子どもの育成
西尾・一色中部小・尾崎　勇司
○友達や地域と協力し防災意識を高め、生きる力をつける子の育成
西尾・一色中部小・本田雄一郎
○身近な題材に「やりがい」を見出し、「いきがい」を大切にした職業観を育てる総合的な学習
豊橋・玉川小・中村　宏人
○主体的に探究し、グローバルな視野をもって、共に学びを深め合う生徒の育成
岡崎・竜海中・武井　翔
○持続可能な社会を目指し、主体的・対話的に学ぶ生徒の育成　岡崎・新香山中・内田　裕斗
○ふるさとに学び、ふるさとに誇りをもつ心豊かな生徒の育成　北設・東栄中・木下　敦介

〈情報教育〉

○自己の考えを整理し、他者との関わりから新しい気付きのできる子供の育成
岡崎・生平小・石谷　遼一
○ICT機器を活用し、互いに関わり合い、学びを深めることができる生徒の育成
豊田・稲武中・林　桂一郎

〈特別活動〉

○居心地のよい学級風土をつくる
知立・八ツ田小・川畑　研
○恵まれた環境で生きる自分に気付き、感謝の連鎖を起こしていこうとする生徒の育成
豊田・高岡中・隅廣　学

〈その他〉

○自らの体格にふさわしい食事をすることができる子の育成　岡崎・矢作南小・金丸　裕美

○「読みたい」「調べたい」という思いをもって読書をする子どもの育成
豊田・岩倉小・伊藤　恵理
○読書活動の楽しさに気づき、本から得た知識を自分の言葉で伝えることができる子の育成
豊田・平和小・山口　美里
○もりもり食べて元気いっぱい、食べることを楽しみにできる子の育成
豊田・市木小・後藤　由佳
○少人数学級・地域の特性を生かし、学ぶ意欲にあふれ、よく考え、自分を表現できる子の育成
豊田・本城小・金田　幸代
○食を楽しみながら健康な体づくりができる子の育成
西尾・福地南部小・鈴木　秋香
○自ら進んで図書資料を活用する子の育成
新城・鳳来中部小・原田　享明
○学校生活の中で、自己肯定感を感じながら、生き生きと活動できる生徒の育成
豊田・末野原中・杉田　和哉
○自分の未来を見つめ、よりよい生き方をめざす生徒の育成
豊田・井郷中・今村　英嗣
○食で育む寺津っ子　西尾・寺津中・加藤　美咲

二年次（五十名）

〈国　語〉

○登場人物の気持ちを主体的に読み取り、自分を表現できる児童の育成
岡崎・六ツ美南部小・河瀬　恵梨
○自分の視野を広げることのできる国語科の授業
碧南・新川小・鈴木　幸太
○読み取ったことを生かして、工夫して音読することができる児童の育成
安城・安城北部小・成田　有紀
○叙述をもとに、主体的にかかわり合う子どもを目指して
安城・桜町小・中務明日香
○話す・聞く力を育てる国語科の指導
新城・千郷小・鈴木有里子
○主人公の心情の変化を読みとり、自ら主題を考える生徒の育成　安城・安城南中・田中　智子

〈社　会〉

○社会的事象を多面的に追究しよりよい社会づくりに向けて考えを深める子供の育成
岡崎・三島小・日置　正敏
○自らの生まれ育った地域に愛着をもち、さらに探究しようとする子どもの育成
みよし・南部小・奥村　芙美
○自ら学びを深め、仲間とともに追究できる子の育成
蒲郡・蒲郡南部小・藤城　大介
○社会的事象を多角的に見つめ、仲間とかかわりあうなかで、持続可能な社会を探る生徒
豊田・若園中・黒田　潤
○ＩＣＴを活用したかかわり合いを通して、歴史的事象を多面的・多角的に考察することのできる生徒の育成　西尾・吉良中・古橋　功至

〈算数・数学〉

○関わり合いを通して、表現力を高め、ねばり強く考える子の育成　豊田・前山小・西田　恵子
○ＩＣＴ機器を活用した数学的な思考力や表現力を高める算数科の学習
豊田・山之手小・野々山尚志
○主体的・協働的な学習を通して、さまざまな考え方のよさに気づき、次に活かすことができる子の育成を目指して
豊川・中部小・長坂　陽子
○自分の考えをもち、仲間の考えを聞いて、数学的に考えることの楽しさを知る生徒の育成
刈谷・刈谷東中・清水　咲子
○題意を具体的イメージでとらえ、論理的に思考する力を高める学習指導
豊田・逢妻中・斉藤　直樹
○協働的な学習を通して、自分の考えを表現することで考えを広げたり、深めたりすることができる生徒の育成　田原・田原中・川崎　啓太

〈理　科〉

○自然とのかかわりを通して、生き物を愛する心をもった子供の育成
岡崎・矢作北小・宇都宮　慎
○学び合う活動を通して、主体的に科学的思考を深めることができる理科学習
安城・安城東部小・糟谷　政人
○生物の素晴らしさを感じ、自ら生命を尊ぶ活動ができる子の育成　高浜・翼小・上井都記子
○友だちの意見を聞きながら学ぶ子どもの育成
新城・新城小・松井　優也
○目的意識をもって観察し、学びの価値を実感する生徒の育成　刈谷・刈谷南中・山口　藍
○互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぶ生徒の育成　幸田・南部中・新鶴田道也
○学習を生活に活かすことのできる生徒の育成
北設楽・東栄中・佐々木栄治

〈音　楽〉

○曲想にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって歌うことの楽しさを感じる音楽教育
刈谷・日高小・砂子　麻紀
○音楽を豊かに感受し、自分の思いを言葉で表現できる児童の育成　安城・桜井小・高野　文香

〈図画工作〉

○一人一人のよさを認め合い、表現の喜びを味わう子の育成
安城・今池小・齋藤みゆき
○友達と友達の作品と関わり合いながら、自分の想像を深めていくことができる子どもの育成
豊川・御津北部小・萩原　千絵

〈技術・家庭〉

○持続可能な社会の形成に向けて、豊かな生き方を追求する生徒の育成
豊田・崇化館中・白神　園恵
○自分なりの見通しをもち、よりよい品質を求めて栽培・収穫することができる生徒
豊田・旭中・赤塚　寛

〈体育・保健体育〉

○チームに貢献する技能や効果的な作戦を追究していく中で、ゲームを楽しむ児童の育成
豊田・浄水北小・長沼　昇
○教師と子どもが協力し合い、楽しいと思える授業をつくる　みよし・中部小・瀬戸菜々子
○一人一人の生徒が「できる」「わかる」を実感できる保健体育授業を目指して
豊田・藤岡南中・山東　篤史
○かかわり合いを通して、積極的に運動の楽しさや喜びを味わうことができる生徒を育成する
西尾・吉良中・清水　優花

〈外国語活動・外国語〉

○人との関わりを楽しみ、自分の気持ちを表現し、世界に目を向け「外国語がわかるようになりたい」と思う子の育成
豊田・前山小・小林　郁美
○相手意識をもち、進んでコミュニケーションを図る児童の育成を目指して
豊田・堤小・窪田　春美
○小規模校の特性を利用した英語学習における、小中接続のあり方
西尾・佐久島中・松本　紘幸

〈生　活〉

○秋の自然物や友達とかかわり、思考を深める子の育成
西尾・一色西部小・八木　春佳

〈道　徳〉

○学びを積極的に行動に表す子供の育成
豊田・童子山小・田中　美帆
○主体的に考え、道徳的な価値判断ができる生徒の育成
豊田・浄水中・瀬戸　英次

〈学校保健〉

○自他を大切にするスキルを身に付け、自分自身を認められる子の育成
豊田・大畑小・尾崎　瑛子
○自らの体の成長に興味をもち、実践的な生活を目指す子
田原・神戸小・眞木　香織

〈特別支援教育〉

○言語活動の充実による友達や教師、地域の人とのかかわりを通して、進んでコミュニケーションを図る子どもの育成
西尾・三和小・山下　雄輔

〈総合的な学習〉

○自ら考え、行動する子どもを育てる総合的な学習の時間
岡崎・矢作南小・兼子しずか
○自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決する子の育成
西尾・一色中部小・黒柳玲衣子
○「人」「もの」「こと」とかかわりながら追究し、主体的に学ぶ子の育成
西尾・一色東部小・髙原　剛
○地域への思いを強くもち、自分たちのできることを見つけて動き出す子どもの育成
幸田・豊坂小・天野　諒祐

〈特別活動〉

○ともに高め合い、自信をもって行動する子の育成
豊田・伊保小・原　洋一
○よりよい自分を目指す態度を育成するためのキャリア教育
豊田・井上小・川上　知子

〈その他〉

○ふるさとに誇りをもち、将来に向けて自己実現しようとする生徒の育成
田原・福江中・松井健太郎

三年次（十名）

〈国　語〉
○仲間と関わりながら、生き生きと学びを深める子供の育成　岡崎・藤川小・廣間三枝子
○ことばを根拠にした読みとりと、友だちとのかかわり合いを通して、自分の考えを深め、豊かに表現していく子どもの育成　西尾・平坂小・神谷　典子

〈数　学〉
○仲間と関わる中で学ぶ喜びを実感し、数学の有用性を実感する生徒の育成　刈谷・依佐美中・村井　琢
○「問い」をもち、筋道立てて解決しようとする生徒の育成を目指して　安城・安城南中・石本　敢大

〈音　楽〉
○仲間と関わり合い、曲のイメージに合った表現を工夫する生徒の育成　西尾・東部中・岡本　麻美

〈技術・家庭〉
○仲間とかかわり合いながら学びを深め、自ら進んで生活を作ろうとする生徒の育成　幸田・幸田中・山田　恵里

〈体　育〉
○豊かなかかわりを通して、「わかる」「できる」喜びを味わう子　蒲郡・塩津小・小林健太郎

〈外国語〉
○友達と学び合いながら、主体的によりよい英語表現を追究する生徒の育成　豊橋・高豊中・杉山　貴哉

〈学校保健〉
○栄養のバランスを考えて野菜を食べることができる子の育成　豊橋・豊南小・永田絵美夏

〈総合的な学習〉
○主体的に行動できる子どもの育成　豊田・小原中部小・尾崎　崇洋

「研究成果報告書」（平成二十六～二十八年度の研究）提出者の紹介

平成二十六年度を研究一年次として、平成二十八年度までの三年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された十名の先生方を紹介します。今後、最終審査会を経て、来年二月に優秀論文の表彰式を行う予定です。

豊田・山之手小
丹羽　法子
書き方を理解して、意欲的に書くことができる子の育成－小学1年国語科「おしえてあげるね　たのしいあき」の実践を通して－　〔国語〕

豊橋・吉田方小
長坂　美恵子
お話を書くことを楽しむ子供の育成～第1学年　昔話に親しみ、お話を書く活動を通して～　〔国語〕

安城・篠目中
有木　志帆
音読・暗唱を通して言語文化に親しむ生徒の育成－中学3年生における研究実践を通して－　〔国語〕

刈谷・朝日中
菅野　愛佳
数学的な思考力・判断力を高め、数学の必要性を実感する生徒の育成～3年「標本調査」の実践を通して～　〔数学〕

豊田・山之手小
森本　祐史
主体的・協働的に学び、数学的表現力・思考力を高める生徒の育成～中学校・関数分野の実践を通して（1・2・3年）～〔数学〕

刈谷・平成小
白髭　鮎美
夢中になって造形活動を行い、よりよい作品を追究し続ける子どもの育成－4年「ダンボールアートに挑戦だ！」、5年「わらアートに挑戦だ！」の実践を通して－　〔図画工作〕

西尾・一色西部小
稲垣　修一
思いやイメージを豊かに表現し、つくりだす喜びを実感する子どもの育成～工作に表す活動の実践を通して～　〔図画工作〕

知立・来迎寺小
岩田　千瀬
仲間とかかわり合いながら技能を高め、運動有能感をもつことができる子の育成～4年体育「ボール投げ　上達への道」、5年体育「50m走　上達への道」、6年体育「走り幅跳び　上達への道」の実践を通して～〔体育〕

刈谷・依佐美中
近藤　和渡
仲間と関わり合いながら課題を解決し、身に付けた技能を生かして運動を楽しむ生徒の育成－1年「ハンドボール」の実践を通して－　〔保健体育〕

西尾・幡豆中
田代　幸佑
地域や仲間と協力し防災意識を高め、生きる力をつける子の育成～6年生　総合的な学習の時間「ぼくら一中小防災リーダー」の実践を通して～　〔総合的な学習〕

平成二十九年度　団体研究助成

本法人では、教育振興に寄与する教育研究団体の教育研究や運営等に助成を行っています。

今年度は、審査委員会において次の五団体にそれぞれ助成が決定されました。

○ 三河小中学校長会
○ 三河教育研究会
○ 三河教頭会
○ 愛知県へき地教育研究協議会
○ 生活・障害児教育研究協議会

刊行物を活用した授業

「新たな読書の世界を広げる」

～「中学生の読書」を活用した読書活動の取り組み～

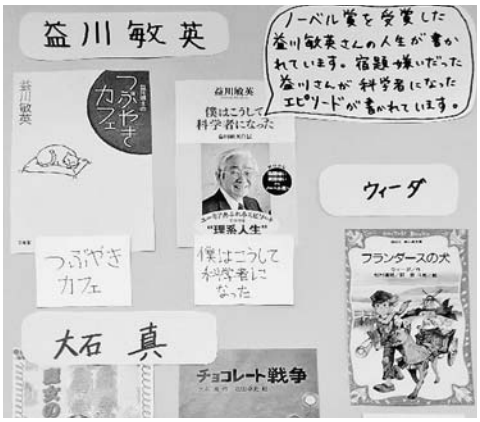
豊橋市立南部中学校　大谷　政代

本校は、平成二十四年度に豊橋市教育委員会から研究委託を受け、「学びをつなぐ～言語活動の充実を図り、『考えをふかめ、表現できる生徒』の育成」を研究主題とし、三年間研究実践に取り組んできた。そして、現在も引き続き、自分の思いを自分の言葉で語ることのできる生徒の育成を目ざし、言語活動の充実を軸とした教育活動に取り組んでいる。

生徒たちが、自分の思いを自分の言葉で語るためには、その土台となる豊かな語彙を身につける必要がある。本校では、多くの言葉にふれ、語彙力を向上することができるよう、始業前の時間に「朝の読書」を行っている。

「中学生の読書」について

「中学生の読書」には、詩、小説、随筆、外国文学、古典文学とさまざまな種類の文学作品が掲載されているため、ふだん生徒たちがなかなか手に取ることのないようなジャンルの作品にもふれることができる。また、どの作品も短編になっていたり、理解しにくい語句・表現には「注」が加えてあったりと、生徒たちにとって、やや難しいと思われる作品も、抵抗なく読み進められるよう配慮がなされている点も魅力である。



図書委員による読書紹介

「中学生の読書」を使った取り組み①

本校では、新入生が入学した当初の朝の読書に、「中学生の読書」を読むことにしている。新入生から「どのような本を選んでよいのかわからない」という質問が多く、朝の読書にふさわしい本を選ぶことに迷っている生徒もいるため、本選びの入り口として、「中学生の読書」を活用している。その後の生徒たちの様子を見てみると、「中学生の読書」に掲載されているあさのあつこの小説を選んでいたり、「堤中納言物語」の続きを興味深そうに読んでいたりと、「中学生の読書」を参考にし、読書の世界を広げることができた。

「中学生の読書」を使った取り組み②

さらに、図書委員によって、「中学生の読書」に掲載されている著者の作品紹介を行った。作品が掲載されている著者は、教科書でも名前を見る新美南吉やあまんきみこから、ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英まで多岐にわたる。この著者たちとの出会いを、生徒たちの今後の読書活動に生かしていくことができるよう、図書委員による紹介を図書室に掲示している。一度読んだことのある著者の作品ということで、生徒たちも親しみがあり、この掲示を参考にして、図書を借りる生徒も見られる。

一冊で多くの作品・著者に触れることのできる「中学生の読書」を今後も活用して、生徒たちの読書活動を充実させていきたい。

学校教育ボランティアグループ活動紹介

源流怒涛太鼓の方々と共に

豊根村立豊根小学校

豊根小学校の子どもたちは大きな自然に囲まれ心豊かに生活しています。地域の方々は学校教育にとても協力的で、講師としてふるさと学習や学校行事に積極的に参加してくださいます。その中で、和太鼓を指導してくださっているのが、源流怒涛太鼓の方々です。

◆常時活動での演技指導

毎週木曜日に、三年生から六年生の子どもたちに、基本的な太鼓の打ち方を教えてくださいます。

太鼓の打ち方では、床に足をしっかりつけ、背筋を伸ばし、リズムよく打つことができるように、一人一人の個性を大切にしてご指導をしてくださいます。バチを持った手の皮がむけても痛みを我慢しながら練習している姿を見ると、子どもたちの和太鼓に対する意欲が感じられます。四月から練習が始まり、少しずつ和太鼓特有の迫力ある音が出てきました。

今後、発表する予定の豊川特別支援学校との交流会、学芸会での発表が楽しみです。

◆豊川特別支援学校との交流会にむけた演技指導

毎年十月に、豊川特別支援学校で「飛竜三段返し」、「勇駒・とんばね」を演奏します。それぞれの曲は独特の動きを伴って太鼓を打ちます。特に「とんばねは」、二人が向き合い、対称の動きで打つところに醍醐味が見られます。この動きを習得するために、互いの太鼓を叩く位置やタイミングを子どもと確認しながら指導していただきました。

当日の発表では、子どもたちは、堂々と発表し、大きな拍手を受けました。その後、豊川特別支援学校の児童生徒と楽しく太鼓の打ち方体験をしました。

◆学芸会の発表のための演技指導

毎年十一月に行う学芸会での発表のために指導をいただいています。学芸会当日は、源流怒涛太鼓の方々の発表もあり、大人の迫力ある演奏に聞き入っています。

今後も、和太鼓活動を通して心豊かな子どもを育てていきます。

（豊根村立豊根小学校教諭　高木　積）

学校って楽しいな

幸田町立幸田小学校　読み聞かせボランティア「よせなべ」

幸田町の北部に位置する幸田小学校は、全校児童八百七十五名の大規模校です。平成二十四年の相見駅開業によって、駅周辺に住宅やマンションが建てられ、現在も児童数が増え続けています。

読み聞かせボランティア「よせなべ」は平成十三年十月に立ち上げられました。今年で活動十六年目に入ります。現在は立ち上げメンバーやＰＴＡ合わせて三十名のボランティアが、様々な活動を行っています。

【毎週月曜日】

月曜日の八時二十分から、特別支援学級の児童を対象に、代表の長谷川三重子さんが、読み聞かせをしてくださいます。「よせなべふわり」と呼び、児童は毎週楽しみにしています。

【毎週金曜日】

金曜日の八時二十分から十分間は、全校読み聞かせの時間です。ボランティアの皆さんが、全クラスに入ってくださいます。時には、校長・教頭・担任も絵本を読みます。児童の真剣な眼差しを見ると、読み聞かせにも力が入ります。

【全校会】

一年に一度「全校会」を行います。体育館スクリーンに映し出される絵本は迫力満点。児童は、ひと味違う読み聞かせに夢中になります。

【一年生クリスマス合同会】

十二月には、一年生児童を対象に「クリスマス会」を行います。クリスマスにちなんだ絵本や音楽を楽しみます。サンタも登場して、大いに盛り上がりました。

【六年生送る会合同会】

二月の終わりには、六年生の児童を対象に「送る会」を行います。六年間最後の読み聞かせです。感謝の気持ちを込めて、六年生全員で真剣に聞きます。児童によるお礼の歌の場面では、「よせなべ」の皆さんは涙を流してみえました。

「よせなべ」の皆さんのおかげで、児童は本が大好きです。今後も読み聞かせをとおして、「学校って楽しいな」と感じる児童が増えてくれることを願っています。

（幸田町立幸田小学校教頭　藤井　敦）

特色ある教育活動

―「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介―

安心して楽しく過ごせる学級づくり

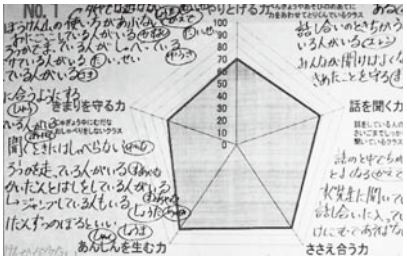
～「学級力向上プロジェクト」を通して～

知立市立八ツ田小学校　川畑　研

本校は、子どもたちが安心して楽しい学級生活が送れるように、「学級力向上プロジェクト」に取り組んでいます。

学級力向上プロジェクトは、次のように行います。①子どもたちが学級力アンケートで学級の状態を評価する。②アンケートの集計をレーダーチャートで確認し、学級の問題を子どもたちが分析する。③学級の問題を解決する活動（スマイルアクション）を子どもたちが決めて実行する。

ある学級では、ろうかや階段を走ることが問題として取り上げられました。そこで「ストップ5（ファイブ）」というスマイルアクションを実行しました。当番制でろうかや階段に子どもたちが立ち、走っている子を見つけると「ストップ5」と声をかけます。走った子は五秒間、その場に止まらなくてはいけません。注意ではなく、声かけなので、走った子も納得した表情をしています。他には、あいさつの声が小さいので「あいさつビンゴ」。おしゃべりをしてしまうので、「44（シーシー）大作戦」。それぞれの学級に応じたスマイルアクションが行われています。



スマイルアクションは、必ずしもうまくいくとは限りません。スマイルアクションの取り組みを子どもたちが見直すことが大切です。それをくり返すことで、みんなで一緒に取り組もうとする学級風土が醸成され、本当の意味で「みんなが安心して過ごせる学級」に成長していることを感じています。

ある学級に転校生が来ました。その子は、乱暴な言葉を発し続けました。しかし、その学級の担任も子どもたちも、怒らずに優しく接することにしました。すると、転校生にも笑顔が増えてきました。実は、この学級では、「ばか」などの乱暴な言葉が飛び交っていましたが、スマイルアクションをくり返し、乗りこえた歴史があります。みんなで乗りこえた自信があるからこそ、担任も子どもたちも穏やかに見守ることができたのです。

行事予定（十一月～二月）

・十一月一日㈬
　「教育と文化」一一五号発行
・十一月七日㈫
　三河校長会郡市代表者文振説明会
・十一月二十九日㈬
　反省事項と次年度申し送り事項締め切り
・十一月三十日㈭
　刊行物モニター研究調査報告締め切り
・十二月一日㈮
　三十年度版刊行物正誤調査依頼
・十二月八日㈮
　教育図書出版助成申請締め切り
・十二月二十八日㈭
　仕事納め
・一月九日㈫
　仕事始め
・一月九日㈫～十五日㈪
　かきぞめコンクール作品募集
・一月十一日㈭～十八日㈭
　平成三十年度版刊行物第Ⅰ期当初注文
・一月十六日㈫
　教育図書出版助成・優秀論文審査会
・二月三日㈯～四日㈰
　かきぞめコンクール作品展（三河教育会館）
・二月九日㈮
　編集委員長・関係部長会
・二月十三日㈫
　運営審議会
・二月二十一日㈬
　理事会・優秀論文表彰式
・二月二十八日㈬
　郡市教育・研究、学校教育ボランティア助成等実績報告締め切り

編集後記

◇十一月に入り、イチョウが美しい黄色に染まり始めました。愛知教育文化振興会の創立六十周年を特集した「教育と文化」一一五号をお届けいたします。本号も執筆者の皆様から玉稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。

◇六十周年を踏まえ、「巻頭言」と「三河教育への提言」では、これまで積み上げられた三河教育の伝統をいかに若い先生方に伝えていくか、ご提言いただきました。「素材や教材への熱意」や「教員の縦横のつながりや交流」などの大切さをご示唆いただきました。

◇「三河の文化を訪ねて」では、刈谷市から郷土の偉人「赤い鳥とともに生きた童話作家　森三郎」をご紹介いただきました。『赤い鳥』とは、鈴木三重吉が発刊した児童向け雑誌で、童話が文芸としての地位を築いた先駆的な出版物であります。生涯この『赤い鳥』に大きな影響を受けた三郎の生きざまを、時代の流れとともに知ることができました。

◇平成三十年度版「刊行物の紹介」を掲載しました。三河の先生方の手作りの刊行物です。是非とも検討・採用をお願いします。見本が必要な場合は、ご連絡ください。

（編集部）